



軽防協ニュース速報

2022 年第 3 四半期(7 月-9 月)の伝染病発生状況

2022 年 12 月配信

(International Collating Centre からの情報)

この記事は、2022 年第 3 四半期 (7 月-9 月) の各国の伝染病発生状況の要約したものである。また、ICC 暫定 (リアルタイム) のレポートでは報告されていなかった疾病発生状況の追加情報が寄せられていることにも留意されたい。この追加情報は、本レポートの表と本文の該当する箇所に*印または#印を付して示されている。ICC 暫定 (リアルタイム) のレポートは、equinesurveillance@gmail.com から受信登録を行うことで e-mail による受信が可能となる。また、<https://equinesurveillance.org/iccview> のページ内にも、同内容のレポートや最新の流行状況が掲載されている。

このレポートに示されているデータには、各国の研究所での検査サンプルや、報告方法に多少のバイアスがあるかもしれないため注意して解釈していただきたい。そのため、これらのデータが必ずしも世界各地における馬の集団内での伝染病発生率を的確に反映しているわけではないことをご了承願いたい。例えば、ある伝染病について発生報告がないからといって、必ずしもその伝染病がその国の中で存在していないということではない。以下の各表は国によって報告された病気の発生件数をまとめたものである。1 件の発生で複数症例を含むものがある。

繁殖疾患

発生国	CEM	EHV-1
アルゼンチン	-	#3
日本	-	#1
イギリス	1	-

ICC により四半期末に報告があった情報

馬伝染性子宮炎 (CEM)

イギリス

ノッティンガムシャー州において、非サラブレッド種の 7 歳牡馬 1 頭に感染を認めた。同馬は 2022 年 4 月末に競技馬としてオランダから輸入されており、感染兆候は見られていなかった。イギリスに輸入されて以降は繁殖に供用されておらず、繁殖前の所定の検査にて感染が判明した。陰茎スワブを用いた PCR 検査およびその後の細菌培養によって初期診断が行われた。

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による流産

アルゼンチン

#3 件の発生が報告された。うち2件については、ブエノスアイレス州の異なる施設におけるワクチン接種済みサラブレッドに発生したもので、1件は4例、もう1件は単独の発症であった。3件目はコリエンテス州におけるワクチン未接種非サラブレッド種1頭の発生であった。陽性診断はPCR検査にて行われた。

日本

#ワクチン未接種のサラブレッド1頭に発症を認めた。陽性診断はLAMP法にて行われた。

呼吸器疾患

発生国	EHV	EHV-1	EHV-1/-4	EHV-2	EHV-4	EI	ロドコッカス	腺疫	腺疫/EI
オーストリア	-	-	-	-	-	-	-	1	-
フランス	-	-	-	-	4	2	-	8	-
ドイツ	-	-	-	-	2	3	-	-	-
オランダ	-	-	-	-	1	1	-	10	2
スイス	-	-	#1	1	1	-	2	5	-
イギリス	-	-	-	-	6	2	-	-	-
アメリカ	1	1	-	-	-	1	-	26	-

#ICCにより四半期末に報告があった情報

馬ヘルペスウイルス (EHV) による呼吸器感染症

アメリカ

ワシントン州オウカノガン郡において口バ3頭の発症を認めた (EHVの株は特定されず)。臨床症状は鼻汁、発熱などで、感染した口バのうち1頭が死亡した。

馬ヘルペスウイルス1型 (EHV-1) による呼吸器感染症

アメリカ

オハイオ州メダイナ郡において1頭の感染を認めた。

馬ヘルペスウイルス1型および4型 (EHV-1/-4) による呼吸器感染症

スイス

#ジュネーブ州において1頭の馬ヘルペスウイルス1型および4型の混合感染が報告され、発熱などの臨床症状を認めた。PCR検査にて陽性を確認した。

馬ヘルペスウイルス 2 型 (EHV-2) による呼吸器感染症

スイス

チューリッヒ州において 1 頭の感染を認め、PCR 検査にて陽性を確認した。

馬ヘルペスウイルス 4 型 (EHV-4) による呼吸器感染症

フランス

オード県、カルヴァドス県、コートダモール県、ロワールアトランティック県において、4 件の単独発症を認めた。臨床症状は発咳、発咳、鼻汁、リンパ節腫脹などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性が診断された。

ドイツ

2 件の発生を認め、1 件はノルトライン・ヴェストファーレン州における単独発症、もう 1 件はメクレンベルク・フォアポンメルン州における 2 例の発症であった。臨床症状は膿瘍形成や間質性気管支肺炎などで、PCR 検査にて陽性が診断された。

オランダ

リンブルフ州において、1 頭のワクチン未接種馬の発症を認めた。臨床症状は発熱、発咳、鼻汁などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性が診断された。

スイス

ボー州において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は発熱や呼吸器症状などで、PCR 検査にて陽性が診断された。

イギリス

グロスターシャー州、ノーサンバーランド州、パース郡 (パースシャー) およびウィルトシャー州において計 7 件の発生を認め、うち 5 件は単独発症、1 件は 4 例の発症を伴い、さらに 1 件は *S.zooepidemicus* の感染も疑われる 2 例が発症した。臨床症状は発咳、食欲不振、倦怠、リンパ節腫脹、鼻汁、流涙、発熱などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査 (5 件) および LAMP 検査 (2 件) にて陽性を確認した。

馬インフルエンザ (EI)

フランス

コートドール県およびロワールアトランティック県において 2 件の発生を認めた。臨床症状は発熱や発咳などで、1 件の発生については鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性が診断された。

ドイツ

計 3 件の発生が報告され、2 件はニーダーザクセン州およびノルトライン・ヴェストファーレン州における単独発症、もう 1 件はノルトライン・ヴェストファーレン州における 3 例の発症であった。鼻腔スワブや鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性が診断された。

オランダ

フリースラント州において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は発熱、鼻汁、倦怠などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査によって陽性を確認した。

イギリス

リンカンシャー州およびイースト・ダンバートンシャー州のワクチン未接種馬において、2 件の発生を認めた。リンカンシャー州の発症馬については、直近でイギリスへ輸入されていた馬であった。臨床症状は発咳、呼吸困難、鼻汁、発熱、頻回呼吸などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。リンカンシャー州の症例の原因となったインフルエンザウイルスの株は、フロリダクレード 1 株であることが後に判明した。

アメリカ

オレゴン州のベントン郡において 1 頭のワクチン接種済みクォーターホース騾馬に発症を認めた。臨床症状は片側性鼻汁などであった。

ロドコッカス・エクイ

スイス

計 2 件の発生を認め、1 件はアーガウ州における単独発症、もう 1 件はボー州における複数症例の発症であった。病原体検出によって陽性を確認した。

腺疫

オーストリア

ドイツとの国境付近において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は発熱などで、PCR 検査にて陽性を確認した。

フランス

計 8 件の発生を認め、オード県、ブーシュデュローヌ県、コートドール県、イゼール県、ロワールアトランティック県、ソーヌエマルヌ県における 6 件は単独発症、オートザルプ県における 1 件は 2 例、コートドールにおける別の 1 件については 4 例の発症であった。臨床症状は発咳、リンパ節腫脹、発熱、鼻汁などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

オランダ

ヘルデルラント州、ノールトホラント州、ゾイトホラント州、オーファーアイセル州、ユトレヒト州のワクチン未接種馬において、計 10 件の単独発症を認めた。臨床症状は下顎・顎下・咽頭後リンパ節の腫大・膿瘍形成・膿瘍破裂、発咳、鼻汁、神経症状、発熱などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

スイス

アッペンツェルアウサーローデン準州、ゾロトゥルン州、チューリッヒ州、ボー州において 5 件の単独発症を認めた。臨床症状は貧血、発熱、呼吸器症状、神経症状などで、PCR 検査にて陽性を確認した。

アメリカ

フロリダ州、ミシガン州、ニューヨーク州、ワシントン州およびウィスコンシン州において、計 26 件の発生が報告された。うち 25 件は単独発症で、1 件は 2 例の発症であった。臨床症状は発咳、食欲減退、顎下リンパ節の排膿、嚥下障害、呼吸困難、喉嚢の軟骨腫、リンパ節の膿瘍形成、鼻汁、発熱、顎下部の腫脹などであった。

腺疫および馬インフルエンザ (EI) の混合感染

オランダ

2 件の発生を認め、1 件はノールトホラント州における単独発症、もう 1 件はノールトブラバント州における 3 例の発症であった。臨床症状は発咳、呼吸困難、倦怠、鼻汁、発熱などで、鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

消化器疾患

発生国	クロストリジウム	ロタウイルス
フランス	-	1
スイス	1	-

クロストリジウム

スイス

ベルン州において、1 頭のクロストリジウム腸炎の発症を認めた。臨床症状は下痢などで、*C.perfringens* A 型が原因菌であることが確認された。

ロタウイルス

フランス

イルエビレーヌ県において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は下痢や沈鬱などで、糞便検体を用いた PCR 検査によって陽性を確認した。

神経疾患

発生国	EEE	EHV-1	狂犬病	WNV
アルジェリア	-	-	-	1
アルゼンチン	-	#1	-	-
カナダ	-	1	-	-
フランス	-	-	-	#3
ドイツ	-	-	-	#12
ギリシャ	-	-	-	#4
イタリア	-	-	-	23
イギリス	-	1	-	-
アメリカ	14	4	1	#38

#ICCにより四半期末に報告があった情報

東部馬脳炎 (EEE)

アメリカ

フロリダ州、インディアナ州、ミシガン州、ニューヨーク州において計 14 件の発生を認め、うち 12 件は単独発症、他 2 件についてはいずれも 2 例の発症であった。症例の多くはワクチン未接種馬または接種不十分な馬における発症で、感染した全頭に典型的な神経症状を認めた。発症馬のうち、9 頭は死亡または安楽死となった。

馬ヘルペスウイルス 1 型 (EHV-1) による神経疾患

アルゼンチン

#サン・イシドロ (ブエノスアイレス州) において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は散瞳、発熱、後躯の運動失調、横臥などで、同馬は安楽死となった。PCR 検査にて陽性を確認した。

カナダ

オンタリオ州のウェリントン郡において、成馬 (騾) 1 頭の発症を認めた。同馬は進行性の協調不全が急速に悪化し、安楽死となった。同馬については敷地からの移動歴はなかったが、敷地内で飼養されていた他の馬は敷地外の競技に参加しており、EHV-1 の感染兆候は示していなかった。

イギリス

ケント州において 1 頭の発症を認めた。鼻咽頭スワブを用いた PCR 検査にて陽性を確認したが、詳細については不明である。

アメリカ

カリフォルニア州、コロラド州、マサチューセッツ州、テネシー州において、計 4 件の単独発生を認めた。臨床症状は運動失調、沈鬱、排尿困難、鼻汁、発熱、漿液性眼漏などで、発症個体のうち 1 頭は口バ、2 頭は直近で馬が施設内外を移動したことに関連するものであった。

狂犬病

アメリカ

オクラホマ州において、1 頭のワクチン未接種クォーターホース騾馬に発症を認めた。同馬は重篤な神経症状を示し、安楽死となった。

ウエストナイルウイルス感染症 (WNV)

アルジェリア

WOAH によって、10 頭の発症を伴う 1 件の発生が報告された。IgM 捕捉 ELISA にて陽性を確認した。

フランス

バール県およびプロヴァンス・アルプ・コートダジュール県において、2 件の単独発症が報告された。臨床症状は運動失調、倦怠、発熱、眼振、筋振戦などで、ELISA 法により陽性を確認した。[#]バール県において、さらに 1 頭の発症が追加報告された。13 歳サドルブレッド種の騾馬における発症で、血液検体を用いた ELISA 法にて陽性を確認した。

ドイツ

ダルゴウ・デーベリッツ (ブランデンブルク州)、ハンブルク州、メクレンブルク・フォアポンメルン州、テューリンゲン州において、計 4 件の単独発症を認め、ELISA 法にて陽性が確認された。[#]さらにブランデンブルク州において 3 件、ザクセン・アンハルト州において 2 件、ザクセン州において 1 件、テューリンゲン州において 1 件の発生が追加報告された。また、8 月に 1 頭の発症があったことも追加報告されたが、発生地については不明である。

ギリシャ

[#]ランガダス郡、ネア・プロボンディダ市、ポリギロス市において、計 4 件の発生を認めた。うち 2 件は単独発症で、他 2 件は各 2 例の発症であった。IgG ELISA にて陽性を確認した。

イタリア

エミリアロマーニャ州、フリウリ・ベネチア・ジュリア州、ロンバルディア州、ピエモンテ州、ヴェネト州において、計 23 件の単独発症を認めた。

アメリカ

カリフォルニア州、コロラド州、フロリダ州、アイダホ州、イリノイ州、インディアナ州、ミネソタ州、ユタ州、ウィスコンシン州において、計 38 件の発生を認めた。うち 37 件は単独発症で、1 件については 2 例の発症があった。示した神経症状は様々であった。

#単独発症のうち、2 件については四半期末後に報告があった。

その他の疾患

発生国	アナプラズマ症	EIA	EVA	ヘンドラウイルス感染症	レプトスピラ	ピロプラズマ症	PHF
オーストラリア	-	-	-	1	-	-	-
カナダ	-	6	-	-	-	-	-
ドイツ	-	-	1	-	-	-	-
ハンガリー	-	1	-	-	-	-	-
スイス	1	-	-	-	1	1	-
イギリス	-	-	-	-	-	1	-
アメリカ	-	9	-	-	-	-	5

アナプラズマ症

スイス

ボー州において、1 頭のアナプラズマ/エールリヒア症を認めた。臨床症状は発熱などで、PCR にて陽性を確認した。

馬伝染性貧血 (EIA)

カナダ

アルバータ州、ブリティッシュコロンビア州およびサスカチュワン州において、6 件の単独発症を認めた。うち 2 例は臨床症状を認め、2 例は輸出時の所定検査にて陽性を確認、2 件は他の陽性確認馬と接触のあった馬であった。感染馬のうち 1 頭は安楽死となった。

ハンガリー

ペシュト県において、不顕性感染馬 1 頭が報告された。症状は認めなかったものの、3 週間間隔のペア血清を用いた抗体 ELISA 検査にて陽性が確認された。同馬は安楽死となった。

アメリカ

カリフォルニア州、ネバダ州、サウスカロライナ州およびテキサス州において、計 9 件の発生があった。うち 6 件が単独発症、他 3 件は各 2 例の発症であった。多くはクォーターホースの感染で、感染馬のうち 3 頭は安楽死となった。

馬動脈炎ウイルス感染症 (EVA)

ドイツ

シュレースウィヒ・ホルシュタイン州において、牡馬 1 頭の感染を認めた。精液検体を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。

ヘンドラウイルス感染症

オーストラリア

クイーンズランド州のマックアイにおいて、ワクチン未接種馬 1 頭の感染を認めた。同馬は急速に状態が悪化し、安楽死となった。

レプトスピラ

スイス

チューリッヒ州 1 において 1 頭の発症を認めた。臨床症状は無尿、発熱、呼吸器症状などで、尿検体を用いた PCR 検査にて陽性を確認した。同馬は死亡した。

馬ピロプラズマ症

スイス

チューリッヒ州において、1 頭の発症を認めた。臨床症状は発熱や呼吸器症状などで、血清学的検査にて陽性を確認した。

イギリス

グロスターシャー州において、市場前の検査にて 1 件の不顕性感染による発生を認めた。感染馬 3 頭は全て直近にイタリアでの飼養歴がある馬であった。*T.equi* については、血清を用いた競合 ELISA 検査および PCR にて全頭に陽性を認め、うち 1 頭については、血清学的に *B.Caballi* への暴露形跡を認めた。

ポトマック馬熱

アメリカ

テネシー州およびヴァージニア州において、計 5 件の単独発症を認めた。臨床症状は貧血、下痢、食欲不振、跛行、倦怠、発熱、敗血性ショック症状などで、感染馬のうち 1 頭は死亡した。